

3月のおすすめ本

祝卒業



「こころの健康」

(1階 特集展示)

自殺対策基本法では、自殺者数の最も多い3月を「自殺対策強化月間」と定め、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現に向け、啓発活動を実施しています。ふらっと立ち寄った図書館で救われた、そんな風に自殺防止の手助けになることを願い、図書館では、こころの健康について特集します。

《ひな祭りのえほん》のえほん

(2階 おはなしコーナー)

ひな祭りとは、桃の節句のことで、女の子のお祝いをする日です。

お雛様やお内裏様を飾って、ぼんぼりをつけて、ひなあられを食べて…。華やかな行事に女の子の心は弾みます。



《靴のえほん》のえほん

(2階 展示コーナー)

3月15日は日本初の西洋靴の工場が出来た日、ということで「靴の日」だそうです。下駄や草履が一般的だった日本では、洋靴が日本人の足には合わなかったため、日本人の足に合う靴を作るために開設されたと言われていています。靴にまつわるお話、そのほか履物をテーマにした絵本を展示します。



《2025年本屋大賞候補10作品！》

【小学館】

『アルプス席の母』 早見和真/著

『生殖記』 朝井リョウ

【講談社】

『カフネ』 阿部暁子/著

【講談社】

『小説』 野崎まど/著

【筑摩書房】

『spring』 恩田陸/著

【PHP 研究所】

『人魚が逃げた』 青山美智子/著

『恋とか愛とかやさしさなら』 一穂ミチ/著

【東京創元社】

『禁忌の子』 山口未桜/著

『死んだ山田と教室』 金子玲介/著

【新潮社】

『成瀬は信じた道をいく』 宮島未奈/著

